

学生相談室から

総合相談窓口 029-853-8430
学生相談受付 029-853-2415

変わりゆく時代を生きる
人間系 助教 北原 祐理



2023年度が終わりに近づいています。コロナ禍の到来とともに大学生活が始まった1年生は4年生になり、次のステージへと歩を進める時期となりました。4年生に限らず、それぞれの学年を過ごす全員が、大きな変化に見舞われたこの数年間を乗り越えてこられたように思います。

改めて一連の時期を振り返ると、学生さんは、自分の力が及ばない危機が存在することを知り、何かを諦めなければいけないこともあったでしょう。いざコロナ明けとなると、対面活動の再開に加え、オンデマンド講義やオンラインインターンシップ、Web就職面接など、新たに生まれた選択肢も溢れ、何を選べば自分の力を発揮できるのか、どのように自分を表現すればいいのか、混乱することもあったかもしれません。懸命に取り組んでみても、思ったように成果が実らないこともあります。変化を乗り越えたのも束の間、学生さんたちの悩みは尽きないように見えます。

急激な変化の中を生きていくことを考えると、頭に浮かぶのが、アメリカ心理学会(American Psychological Association: APA)が「レジリエンス」に関してまとめた文章です。レジリエンスとは、逆境や

困難に晒されながらも、それを跳ね返し、しなやかに立ち直る力のことです。APAはレジリエンスを育てる10の方法の1つとして、“Accept that change is a part of life.”というフレーズを挙げています。そのまま訳すと「変化は人生の一部であることを受け入れる」ということ。少し解釈を加えると、変わりゆくことが生きることそのものであり、自分自身や自分を取り巻く環境の変化にも積極的な意味を見出していこう、ということでしょうか。

APAはまた、「変えることができない状況を受け入れることは、これから変えることができる状況に集中することに役立つ」とも伝えています。危機や挫折を体験すると、これまでの目標や、拠り所としていた価値観、理想を手放し、再構築する必要に迫られるわけですが、これはそう簡単なことではありません。しかし、学生相談室に来られる学生さんたちが、自分に起きたことを振り返り、語り、立ち直っていくとき、まさにこのプロセスを辿っているように感じます。そして、話を聴く側も、従来の価値基準に囚われず、今あるものに目を向けるしなやかさを鍛えられている感覚を伴います。

絶え間なく変化が起こり、何が正解であるかが一層わからなくなる時勢に、お一人お一人が少しでも前向きな選択をし、これでよかったと思い続けられるように、学生相談室は一緒に考える場でありたいと願っています。保護者の皆様におかれましても、お子様の歩みをお見守りいただき、お困りごとや心配ごとがある際には、ぜひ学生相談室・総合相談窓口をご利用ください。

紫峰の風

shihou no kaze



筑波大学
University of Tsukuba

第31号 2024年2月

『紫峰の風』は学生生活の様子や活動の報告を紫峰会基金協力者の皆様にお届けする広報誌で、紙面の企画や記事の取材等は学生広報会議や広報部会の学生が実施しています。この名称には「筑波の峰から吹き降る風に、我々の活動への想いを乗せて、全国の皆さまのもとへお届けする」という意味が込められております。



バルーンリリース



選手宣誓



会場の様子



ラジオ体操

第47回スポーツ・デーを終えて

11月18日、19日に第47回秋季スポーツ・デーが開催されました。今大会では筑波大学開学50周年を記念した学類対抗ドッジボール大会を行いました。どの学類の代表も奮闘し、とても盛り上がる大会となりました。また、2日間とも天候に恵まれ、閉会式では、コロナ禍で行われていなかったバルーンリリースを再び行うことができました。今まで委員一同、コロナ禍以前のスポーツ・デーに戻すことを目標にして準備してきたので、今大会ではその目標を大いに達成できたと思います。これも皆様のご支援のおかげだと思っています。ご協力いただき大変ありがとうございました。

現在スポーツ・デー学生委員会は代替わりを終え、第48代が始動しました。今回の反省を生かしながら、さらにスポーツ・デーを盛

り上げるために、委員一同、知恵を出し合いながら準備を進めています。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

(寄稿／第47代スポーツ・デー学生委員会委員長
渡辺登生・応用理工学類3年)

今後の主な予定(変更になる場合があります)

春季休業	2月17日～4月4日
同(東京キャンパス・夜間)	2月10日～4月5日
卒業式・大学院学位記授与式	3月25日
同(東京キャンパス・夜間)	3月30日
入学式	4月5日
同(東京キャンパス・夜間)	4月6日
新入生歓迎際	4月6日
新入生オリエンテーション(学群)	4月5日～9日
新入生オリエンテーション(大学院)	4月5～9日
同(東京キャンパス・夜間)	4月6日
授業開始(学群)	4月15日
授業開始(大学院)	4月15日
同(東京キャンパス・夜間)	4月9日
春季スポーツ・デー	5月18、19日(予定)

令和5年度 筑波大学卒業式のご案内

- 日 時 令和6年3月25日(月)
■会 場 筑波大学 大学会館(講堂ほか)
【第1回】9:30～10:15(開場: 8:50)
対象組織: 人文・文化学群、社会・国際学群、人間学群、理工学群、理療科教員養成施設
【第2回】11:30～12:15(開場: 10:50)
対象組織: 生命環境学群、情報学群、医学群、体育専門学群、芸術専門学群

令和5年度 筑波大学大学院学位記授与式のご案内

- 日 時 令和6年3月25日(月)
13:30～14:25(開場: 12:50)
■会 場 筑波大学 大学会館(講堂ほか)

※式の時間については予定時刻となっております。進行の都合上、変更となる場合がございますので、ご了承ください。

卒業式・大学院学位記授与式、入学式・大学院入学式 共通連絡事項

*会場の収容定員の関係により、ご家族の出席は2名までとさせていただきます。また、ご家族は大学会館内の別会場でのスクリーン視聴となり、メイン会場の講堂にはご入場いただけませんのであらかじめご承知おきください。

*式典の様子は、ライブ配信(YouTube)いたします。

*最新情報や詳細については、[筑波大学基幹サイト\(ホームページ\)](https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/calendar-ceremony/)にてご確認ください。

<https://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/calendar-ceremony/> 問い合わせ先: 筑波大学総務部総務課 029-853-2025(平日9:00-17:00)



筑波大学紫峰会基金WEBサイト
<https://futureship.sec.tsukuba.ac.jp/shihokai/>



紫峰の風送付先変更の連絡はこちら
E-mail: renkei@un.tsukuba.ac.jp 電話: 029-853-2030
本号について、ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

紫峰の風 第31号 2024年2月発行

発行 事業開発推進室

編集 学生部学生生活課

学生広報会議

(高橋愛果・比文2年、高田梨々子・創成2年、相楽駿・社工2年、山本彩佳・障害2年、長沼正樹・エシス4年、中村恭輔・人文2年、廣瀬健大・地球3年、齋藤圭祐・医学2年)

学生広報部会

(河原井かれん・人間総合群芸術P2年、高見沢仙美・数物群マテリアルP2年、原すみれ・社会3年、福永拓真・地球3年、榎本陽子・総合1類1年、村松茜里・知識1年)

タイトルロゴデザイン 塚本真理(芸専2016年度卒)

〒305-8577 茨城県つくば市天王台1-1-1

電話: 029-853-5886 E-mail: gk.shihokai@un.tsukuba.ac.jp

第47回スポーツ・デー



サッカー集合写真



e-sports会場



バドミントン練習の様子



フットボール



サッカー決勝



ハンドボールシュートの様子



ソフトボール



バレーボール



ハンドボール表彰式



バブルサッカー



バレーボール集合写真

特別援助金報告

～2023年Foot-Oジュニア世界選手権大会日本代表遠征に参加して～



ジュニア選手権ミドル種目で疾走する藤原選手

2023年7月3日から8日にかけて、ルーマニア・バイアマレで開催された世界ジュニアオリエンテーリング選手権大会に、藤原考太郎（比較文化学類2年）が日本代表として出場しました。

彼はこの遠征で得た経験について、「オリエンテーリングの本場であるヨーロッパへの日本代表選手としての派遣を通じて、自身と海外トップ選手との競技力の差を実際に体感し、この差を少しでも縮めることができるよう、部の人間を巻き込んで成長していきたいと考えようになった」と語っています。

渡航費や滞在費は学生には大きな負担であり、紫峰会基金援助金による支援をいただいているおかげで安心して競技に専念することができています。ご支援いただき心より感謝申し上げます。

（寄稿／オリエンテーリング部主務 稲邊拓哉・数学類3年）

援助対象	オリエンテーリング部
特別援助金区分	海外遠征A
援助金額	174,000円

～ワールドトライアスロン・デュアスロン選手権大会に参加して～



ミックスリレーの様子

個人レースでのバイクの様子

2023年4月29日～5月7日にスペイン、イビザ島にて開催されました「2023 World Triathlon Multisport Championship」に紫峰会基金援助金の支援をいただき日本代表として出場しました。

この大会はトライアスロンをはじめとするマルチスポーツの世界選手権大会であり、4月29日のデュアスロンの個人レースと30日のミックスリレーに出場しました。デュアスロンはラン・バイクの2種目で構成され「1stラン→バイク→2ndラン」と競技が進みます。29日の個人レースではエリートの部門で30位、U-23の部門で9位、30日のミックスリレーでは6位という結果でした。初めて海外で各国の選手とレースに臨み、多くの経験を得ることができました。

遠征費がほぼ全額自己負担で出場に躊躇しましたが、紫峰会基金からのご支援をいただくことができレースをすることができました。ご支援に心から感謝申し上げます。

（寄稿／トライアスロン部部員 金田遼祐・体育専門学群4年）

援助対象	トライアスロン部
特別援助金区分	海外遠征A
援助金額	140,000円

桐の葉日記

年明けから1カ月、「一月往ぬる二月逃げる三月去る」と言いますが、毎年この時期は過ぎ行く日々の早さを痛いほど実感します。大学生は時間があるように思いますが気付いたら卒業の時期になっていそうですね。

さて、大学の4年間は人によって捉え方が本当に様々だとは思いますが、私は何でも挑戦できる期間だと思っています。自由な時間がある分、のんびり過ごすも何かに勤しむも自分次第ですが、将来を考えることが増えた最近、思い出した警句があります。「人生は何事もなさぬにはあまりにも長い、何事かをなすにはあまりにも短い」中島敦さんの代表作『山月記』の中の警句です。「漠然と過ごしていると長く感じるけれど、いざ自分のしたいことを見つけたとき、人生が短く思うほどに時間の流れが早く感じるのだから、興味を持ったことは臆さずすぐにチャレンジしていくことが大切だ」という風に解釈しています。

3月が去ると新学期がやってきます。ここまでゆっくりと休んでいた方も志新たに何かに打ち込んでみたり、打ち込めるものを探すために挑戦してみたりするのも楽しそうではないでしょうか。

この『紫峰の風』では来年度も引き続き学生の活動や役立つ情報を伝えていきますので、少しでも読んでくださる方の興味に繋がると嬉しく思います。

（文責／全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議広報委員 高田梨々子・情報メディア創成学類2年）

大学の風景



一輪

視線



立つ鳥

課外活動団体一覧

2024 年 1 月現在

文化系サークル連合会
団体名
筑波大学電気通信研究会
E.S.S.(English Speaking Society)
池坊華道部
宇宙工学研究会
映画研究部
SF研究会アルビレオ
園芸クラブ
海洋研究会
歌留多部
斬桐舞
CLOVER ～難民と共に歩むユース団体～
現代視覚文化研究会
茶道同好会
茶道部和敬清寂社
社会福祉研究会
写真部さくら組
手話サークル
将棋部
図画団
ストーリーテリング研究会
T. A. S. C.
筑波大鉄研「旅と鉄道の会」
つくば鳥人間の会
天文研究会
TOJO K-ON
ねっしー・自然教育研究会
文芸部
マジシャンズクラブ
漫画研究会
野外活動クラブ
野生動物研究会
歴史探訪会
Amusement Creators

芸術系サークル連合会
団体名
アカペラサークルDoo-Wop
E. L. L(筑波軽音楽協会)
応援部WINS
合唱団むくどり
管弦楽団
ギター・マンドリン部
劇団筑波小劇場
混声合唱団
ジャグリングサークルSheep
写真部
JAZZ愛好会
書道部

吹奏楽団
津軽三味線倶楽部無絃塾
筑波音楽協会
筑波能・狂言研究会
つくばフォーク村
THK筑波放送協会
ときめき太鼓塾
人形劇団NEU
ピアノ愛好会
ViCC-映画をつくる会-
フォルクローレ愛好会
競技ダンスサークル舞研
ブロックフレーテ同好会
邦楽部
ミュージカル集団ESSASSA
落語研究会
ジャズ楽団 Neopolis BIGBAND
男声合唱団メンネルコール

体育会
団体名
部 会
アーチェリー部
合気道部
アイススケート部
男子アイスホッケー部
女子アイスホッケー部
アメリカン・フットボール部
鹿島神流武道部
空手道部
弓道部
剣道部
硬式庭球部
硬式野球部
サイクリング部
蹴球部
女子サッカー部
柔道部
準硬式野球部
少林寺拳法部
水泳部
スキー部
漕艇部
男子ソフトボール部
女子ソフトボール部
体操部
体操競技部
卓球部
ダンス部
トライアスロン部

軟式庭球部
馬術部
男子バスケットボール部
女子バスケットボール部
バドミントン部
男子バレーボール部
女子バレーボール部
男子ハンドボール部
女子ハンドボール部
フィールドホッケー部
ライフセービング部
ラグビー部
男子ラクロス部
女子ラクロス部
陸上競技部
オリエンテーリング部

同好会
剣道同好会
サッカー同好会
バスケットボール同好会
バドミントン同好会
バレーボール同好会
フェアリースキークラブ
ワンダーフォーゲルクラブ
トランポリン同好会
アルティメット同好会INVERHOUSE

医 学
医学アイスホッケー部
医学弓道部
医学剣道部
医学硬式庭球部
医学ゴルフ部
医学サッカー部
医学準硬式野球部
医学水泳部
医学スキー部
医学ソフトテニス部
医学卓球部
医学バスケットボール部
医学バドミントン部
医学バレーボール部
医学ハンドボール部
医学ヨット部
医学ラグビー部
医学陸上競技部

1 年間を振り返って

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議議長 林凜太郎 社会工学類 3 年



『紫峰の風』をお読みの皆様、日頃より全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議（以下、全代会）へのご信任とご支援をいただきましてありがとうございます。
今年度、全代会は「基盤を整える」ことに力を入れてきました。議長団が構成員の意欲向上や広報、規約の面から働きかけただけでなく、委員長陣も属人的なタスクの分散や各組織との連携の強化などを行いました。これらの働きかけにより、全代会内部だけでなく筑波大学における基盤も整ってきたように感じます。
全代会は、全学の代表組織として学生生活をより良くする為に活動しています。特に今年度は、専門委員が非常に増えたことから、50 周年記念式典の際に開催した「International Day 2023」や、筑波大学に訪れた海外大学との意見交換会など、様々な活動ができるようになってきたかと思います。
今後は整ってきた基盤を用い、様々な方面に働きかけをすることで、学生生活をより良くすることを目指します。

文化系サークル連合会

第 48 期文化系サークル連合会運営委員長 時長隆乃介 物理学類 2 年



1 年間文化系サークル連合会の運営委員長を務めさせていただきました。物理学類2年の時長隆乃介と申します。
2023 年は立て直しの年でした。コロナ禍の影響もあり、サークルの運営がままならない団体も多く、ましてサークル連合への運営協力など期待すべきではありませんでした。運営委員長である私が、抽選で選出されたことが何よりの証左でしょう。
一方で大学は学生を主体として扱う姿勢があります。これ自体はとてもよいことです。しかし、主体性のない学生と合わさるとどうでしょうか。結局、サークル連合のような大学と学生の「間」の存在が板挟みになるだけです。「筑波大学に大学生協がなかったり、学生の活動が規則によって厳格に縛られているのは、大学による弾圧だ」などという言説も耳にしますが、とんでもない。大学には学生をきちんと主体として扱う用意があるのに、学生にやる気がないだけなのです。あと数年も経てば、学生の活気も違ったものになるでしょう。その頃に、大学と学生があるべき姿で共同していることを、私は切に願っています。

芸術系サークル連合会

第 47 期芸術系サークル連合会運営委員長 山崎健太 医療科学類 3 年



今年1年を振り返ると、学生生活が少しずつ元に戻ってきていることを実感します。4月には全体の新歓の他、数年ぶりに対面での「芸術系サークル合同新歓」を行いました。まだ運営面での改善点などはあるかと思いますが、今後更にレベルの高いイベントを行う足掛かりになったと思います。
今年から、芸術系サークル連合として活動する上での運営委員会や代表者会議を対面に戻すことができました。おかげで、様々な団体の視点から有意義な話し合いができたと思います。今後も芸術系サークル連合会に所属する団体同士のつながりを意識し、より組織力を高めて様々なことに励んでいってほしいと思っています。今年1年、多くの事に挑戦ができたのも、課外活動に支援をしてくださった多くの方々のおかげです。本当にありがとうございました。

体育会執行委員会

第 47 代体育会執行委員会委員長 横山大起 物理学類 3 年



日頃より体育会へのご声援、ご協力をいただきましてありがとうございます。昨年末まで体育会執行委員会の委員長を務めておりました、物理学類3年の横山大起と申します。今年は新型コロナウイルス感染症の猛威も収まりつつあり、体育会としてこの1年間をどのように活動し、盛り上げていくかを模索し続けた年でありましたが、皆様の支えもあり無事に任期を終えることができました。この場を借りて感謝申し上げます。
着任前は学業や部活に追われ、コロナ禍の影響もあり思うように広い人間関係を築くことができないような大学生活をおくっておりました。しかし、体育会執行委員会委員長という多くの人と関わることができる役職に就くことで、私の大学生活を充実させることができたと思います。普段の学業や部活の役職に加えて、委員長としての責任ある役職を任されることに一抹の不安はありましたが、多くの人の助力もあり、体育会を以前よりも盛り上げることができたと思っています。この経験を活かして、卒業後も社会人として活躍していきたいと思っています。
今後とも筑波大学体育会へのご声援のほど、よろしくお願い申し上げます。

医学部会執行委員会

医学部会執行委員会委員長 萩原陸渡 医学類 2 年



私が医学局長になって1年が経ちました。1年を振り返ると、この1年は医学部会の私たちにとって大きな変化があった年だったと感じます。まず一番に思い浮かぶのは、3年ぶりとなった東日本医科学生総合体育大会（以下、東医体）の開催です。東医体の開催に伴って、私たち執行委員会の仕事も大きく変化しました。東医体出場校との連携はもちろんのこと、東医体に出場する医学団体の手続きや会計など、様々な仕事が追加されました。
新たな状況に慣れない部分もあり、皆さんに色々と迷惑をかけてしまったかもしれません。しかし、多くの人の支えがあり、今年度の東医体を無事終えることができました。多くの協力や支援、本当にありがとうございました。今後も医学執行委員会として医学部会のサポートができればと思います。これからも医学執行委員会をよろしく願っています。

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議活動紹介

生活環境委員会

生活環境委員会は、筑波大生の授業以外の生活で困っていることや必要なことを考え、大学教職員の方などと協力しながら、学生生活の改善のために活動している委員会です。その一環として、宿舎にこれから入居する新入生に向けて、宿舎での生活の知恵や筑波大学での新生活を紹介する「宿舎Web」というものを公開しています。今年も前期入試の合格発表後にページを公開予定です。

新入生の1人暮らしは、新入生はもちろん保護者の方々にとっても不安なことだと思います。そんな新入生と保護者の方々に向けて、筑波大学の1人暮らしの先輩から少しでもためになるアドバイスや参考になる情報をご提供できるWebサイトを作りたいという思いから宿舎Webを始めました。

このWebサイトでは先輩の宿舎生活や部屋のレイアウト、入居までに用意しておいた方がよいもの、筑波大生にとって必須の自転車情報、新入生や保護者の方々からの質問受け付けなどを行っています。特に自転車に関しては、今年度全代会が事業開発推進室と共同で進めていたリサイクル自転車事業についても触れており、宿舎入居当日にレンタルできる自転車や新入生に学内を案内するサイクリングイベントなども用意しております。ぜひ公開されましたら宿舎Webをのぞいてみてください。(寄稿/全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議生活環境委員会 委員長 高橋蓮・人文学類1年)

国際特別委員会

国際特別委員会は、筑波大学の国際化および留学生の諸問題の解決を目的として2022年度7月に設立された特別委員会です。現在は日本人学生が留学生の生活をサポートするチューター制度や、留学生向けの情報を掲載するパンフレットの制作を取り扱っています。

また、2月末からは全代会構成員でマレーシア工科大学およびフィリピン大学を訪問し、現地学生と交流をする海外研修を実施します。昨年度の研修で得られた知見は委員会の活動に大きく役立ちました。今年度も海外研修を通して、留学生や日本人学生が抱える国際化に対する問題に、より一層積極的に向き合っていきたいと思います。(寄稿/全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議国際特別委員会 委員長 吉川栞・第2類1年)



海外研修の様子 2023年3月9日撮影



医学部会活動紹介

医学スキー部



2023年東日本医科学生総合体育大会集合写真 2023年3月6日撮影

医学スキー部は現在、31名の部員で活動しています。

オフシーズンでの練習は、毎週火曜日には体育館を使用した陸上トレーニング、土曜日には外部コーチを招いて、より実践的なトレーニングを行います。スキーシーズンに入ると実際に雪山に行き、スキーのトレーニングを行います。年に約30日間の合宿を行います。

多くの合宿を行うこともあり、スキー技術が向上するだけでなく、部員同士が本当に仲良くなれます。先輩たちも優しく、後輩たちも遠慮しすぎない和気あいあいとした雰囲気、目標である東日本医科学生総合体育大会の練習に臨むことができます。

去年の2023年東日本医科学生総合体育大会では、個人GS(ジャンプ・スラローム)で4位をとることができました。今年は、個人の成績だけでなく、団体でもよい順位を収めることを目標に部員一同、精進していきますので応援よろしく願いいたします。

(寄稿/医学スキー部主将 折茂海・医学類3年)

医学陸上競技部



東日本医科学生総合体育大会優勝時の集合写真 2023年8月11日撮影

医学陸上競技部は選手54人、マネージャー10人が在籍しており、月水金土の週4回、大学内の陸上競技場で練習をしています。練習は陸上同好会と合同で行っており、たくさんの仲間たちと日々楽しく活動しております。

今年度はコロナ禍を経て数年ぶりに医学系大会が全て開催され、東日本医科学生総合体育大会男子優勝、全関東MDPV男女総合優勝など、すべての大会で上位成績を収めることができました。強い筑波の医陸を継承することができ、大きな実りのあるシーズンとなりました。

来年度も医学系大会優勝を目標に部員一同精進して参りますので、応援の程よろしく願いいたします。

(寄稿/医学陸上競技部主将 郡晃久・医学類3年)

文化系サークル連合会活動紹介

海洋研究会



式根島の合宿の様子 2023年8月23日撮影

こんにちは、海洋研究会です。本サークルの主な活動は、スキューバダイビングです。酸素ボンベを背負わず、自分の肺だけを頼りに潜るのが特徴です。スキューバダイビングよりも軽装備・身軽なので、人魚になったような気分を味わえるのが醍醐味のひとつでしょう。伊豆・式根島・沖縄などで行う3回の合宿に向けて、大学のプールで練習をしています。海に潜る目的は人それぞれで、海水魚オタク、サンゴなどの絶景を見たい人、水中カメラマン、ただ泳ぐのが好きな人など、様々な角度から本気で海を楽しんでいます。合宿中は、スキューバダイビングはもちろん、観光したりその地域の伝統料理やスイーツを食したりと、のんびりした島時間を過ごしています。夏が終わった後も、磯採集やスキー合宿、雙峰祭の出店など多くのイベントがあり、1年間は瞬く間に過ぎ去っていきます。

海洋研究会は、2023年に創立50周年を迎えました。海を愛する海洋研メンバー一同、今後も楽しく安全に活動を続けてまいります。

(寄稿/海洋研究会会長 嶺野朱璃・医療科学類2年)

宇宙工学研究会



製作中の四脚ロボット 2024年1月20日撮影

宇宙工学研究会では、工学全般を対象にしており、会員はロボットやメカ製作、ペットボトルロケット実験、プログラミング等を行っています。各自が自分のペースで取り組みたい対象に熱心に向かい合い、勉強・実験を通して理解を深めています。全体の活動としては月1、2回のミーティングで情報共有をして、つまづいている事象へのアドバイスや新たな知識・発見の獲得を目指しています。会員は、初心者から経験者まで所属しており、初心者は経験者のアドバイスに、経験者は初心者ならではの視点に解決策を見出すこともしばしばあります。

他にも、展示会や大会への参加を目標に日々試行錯誤を重ねています。今後も様々な工学技術に触れつつ、新たな挑戦の場を創り出していきたいと考えております。

(寄稿/宇宙工学研究会会長 村上大悟・工学システム学類1年)

文芸部



読書会の様子 2024年1月18日撮影

文芸部は毎週木曜日に春日エリアで活動しており、様々な学類の部員が所属しています。毎週参加しなければならない、作品を書かなければならないといったルールはなく、自由で和気あいあいとした雰囲気、サークルです。普段の活動は読書会です。部員が書いてきた短編やエッセイを読み、思い思いに作品について意見交換をしています。所属する学類や学年に関係なく、作品を通じて自分の好きなものを自由に表現でき、誰かの好きなものに直接触れられる場です。

また部誌として年に4回ほど『樹林』という短篇集を作成し、販売したり文芸部のXアカウントで投稿したりしています。雙峰祭には毎年参加しており、昨年度は部誌に加えて部員の個人誌と古本を販売しました。年に2回東京で行われる文学フリマにも参加しています。部誌や個人誌は、内容も装丁も部員が工夫を凝らしたものとなっています。機会がありましたら是非読んでみてください。

(寄稿/文芸部部長 近藤あかね・日本語・日本文化学類2年)

手話サークル



他大学手話サークルとの交流イベントの様子 2023年12月22日撮影

筑波大学手話サークルでは、手話を勉強すること、手話を使ってゲームをすること、手話でお喋りすることの3つが主な活動内容です。曲の歌詞に合う手話表現を考えて行う手話コーラス、雙峰祭、BBQ、他大学との交流などのイベントもあります。

手話サークルに入る人は、元からの経験者もいますがほとんどは大学から始めた人です。週2回の活動でゆるく、楽しく手話を学んでいます。参加するペースも、毎週来る人もいれば、たまに参加する人、イベントだけ参加する人などさまざまです。アルバイトやサークルの掛け持ちをしている人もたくさんいます。このように、人によって楽しみ方がまちまちなのが筑波大学手話サークルの特徴です。

最近では手話を題材にしたドラマやマンガなども多いです。その影響か手話サークルに入会する人も多く、手話に興味を持っている人が増えているように感じます。

(寄稿/手話サークル会長 藤田葉月・障害科学類2年)

芸術系サークル連合会活動紹介

書道部



2023年度雙峰祭書道パフォーマンス 2023年11月4日撮影

筑波大学書道部は、毎週火・金曜日、19:00から活動しています。普段の活動では、個人の作品制作に加え、テーマを決めた創作書を行っています。テーマは季節や日付の語呂にちなんだものなど、書を身近に楽しめるものになっています。また、他部活の横断幕など、依頼されたものも可能な範囲で制作しています。

雙峰祭では、ステージで創意工夫を凝らし、曲に合わせたパフォーマンスで観客を楽しませました。パフォーマンスは未経験という部員も多くなりましたが、皆で力を合わせることで一つの作品を作り上げることができました。

書道部では、経験や性別・出身を問わず、書の楽しさを感じられる活動を行っています。実際、部員には未経験者や海外出身者も多くいます。これからは書の楽しさを部員全員で共有しつつ、活動の幅をさらに広げていく所存です。

(寄稿／書道部副部長・会計 緒方慧・日本語・日本文学類3年)

管弦楽団



筑波大学管弦楽団第93回定期演奏会の様子 2023年5月6日撮影

当団は、1974年に創団し、現在団員約100名を擁する筑波大学内でも最大規模を誇る課外活動団体の1つとなっております。活動の中心として、春・秋に定期演奏会、冬にプロムナードコンサートを開催しております。他にも、各パート・セクションでのアンサンブルコンサート、依頼演奏などの活動、大学・大学院の卒業式・入学式における演奏も行っております。

ようやくコロナ禍が収束へと向かい、2023年の夏に4年ぶりとなる夏合宿を行うことができました。そこでの練習の成果もあり、10月7日に無事に第94回定期演奏会を開催することができました。また、筑波大学50周年式典においては、混声合唱団と一緒に学生歌「常陸野の」を演奏させていただきました。これからも、より良い音楽を追求しながら、地域の音楽文化のさらなる発展に貢献できるよう団員一同で活動に励んでまいります。

(寄稿／管弦楽団第47期団長 市川遙・応用理工学類4年)

ミュージカル集団 ESSASSA



キャスト・スタッフ集合写真(第53回公演「Music Wizard of OZ」) 2023年8月13日撮影

こんにちは、ミュージカル集団ESSASSAです！私たちは、「自分の能力に合わせて各自が目標を設定し、技術の向上を目指すことで、筑波大学内外の人が楽しめるミュージカルの公演を行う」ことを目的に、年2～3回の公演に向けて日々練習を行っています。

2023年8月には第53回公演「Music Wizard of OZ」を、そして11月には「ミュージカルカフェESSASSA」として団体初の試みである雙峰祭への出店を行いました！たくさんのご来場ありがとうございました！2024年3月には、第54回公演「Staying/Steps」を公演予定(執筆時現在)です。

2024年度も、年2回の公演および雙峰祭への出店に向けて日々準備を進めています。最新情報は、公式HPやLINE、X(旧Twitter)およびInstagramなどで発信しておりますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。

新たな公演や、よりパワーアップしたESSASSAのお店を楽しみにしてください。

(寄稿／ミュージカル集団ESSASSA 2023年度座長 川田紗楽・比較文化学類3年)

ピアノ愛好会



2022年度サマーコンサート 2022年7月23日撮影

ピアノ愛好会は、ピアノを愛する学生が集まり、ピアノを通して交流を深めるサークルです。大学院生や留学生の方も多く所属しており、個性豊かなメンバーで週1、2回活動を行っています。毎週会員内で行われる「内輪コンサート」では、ピアノを弾くのは勿論、好きな作曲家について語り合ったり、コード進行の議論が行われたり、数学を教え合ったりと、ピアノを囲みながら各々自由に過ごしています。

年間の主なコンサートとしては、サマーコンサート、学園祭コンサート、ウィンターコンサート等があり、こちらは学外の方にも日頃の練習の成果を聴いていただける貴重な機会です。

最近では2台ピアノでの連弾やオタマトーンとの合奏など、演奏の幅が広がっており、より一層ピアノの魅力を感じていただけるプログラムとなっています。皆様のお越しを、会員一同お待ちしております。

(寄稿／ピアノ愛好会会長 小川葉・工学システム学類2年)

体育会活動紹介

トランポリン同好会



競技大会の様子 2023年10月29日撮影

トランポリンは体操競技であると同時に、遊具でもあり、飛ぶだけで笑顔になる、誰もが楽しむことのできるスポーツです。トランポリン同好会では、日々トランポリンの練習をしながら仲間たちと顔を合わせておしゃべりをして、時に一緒に出掛けたり、他のスポーツも楽しんだり、会員らの憩いの場として機能しています。

「トラ同陸上部！」というような他の競技を行う集まりを会内に作ることもあり(遠泳部、スノーボード部、ツーリング部など)、会員らの親睦はますます深まっていると感じます。最近では、コロナ禍で中止されていた記録会への参加や、近くのトランポリンクラブのご指導の下で行う合宿も始めました。年々にぎやかになっているトランポリン同好会の活動にぜひご注目ください！

(寄稿／トランポリン同好会主将 清田空月・社会工学類2年)

硬式野球部



2023年秋季リーグ戦 2023年10月1日撮影

筑波大学硬式野球部には現在102名の部員が所属しており、リーグ優勝を目標に日々練習に励んでいます。今年のチームのスローガンは「繋ぐ・絆ぐ・つなぐ」と掲げており、部内や部外とつながる、筑波の伝統をつなぐ、筑波らしさを出す、といった想いが込められています。

普段は春季、秋季に開催されるリーグ戦に向けて練習していますが、他にも多くの活動が行われています。春季、夏季にはキャンプが実施され、野球に対して真剣に向き合える環境で練習をすることができます。また、秋季には「天王台リーグ」が開催され、部内で3チームに分かれてリーグ戦方式の紅白戦を行います。さらに、野球以外にも駅伝大会や部内企画など、部員同士の仲を深めることを目的とした活動も行っています。

昨年は惜しくもリーグ2位という結果でシーズンを終えました。この悔しさをバネに、今年こそリーグ優勝を果たしてみせます。

(寄稿／硬式野球部副務 岡本桜介・体育専門学群2年)

体操競技部



全日本学生体操競技選手権大会にて 2023年8月22日撮影

体操競技は、男子は6つ、女子は4つの種目を行い、演技における技の難しさや美しさなどを競う競技です。現在、体操競技部は、男子17名、女子9名の26人で週に5～6回程度毎年夏に行われる全日本学生体操競技選手権大会でよい成績を収めることを主な目標として練習を行っています。昨年は男子団体4位、女子団体3位という結果でした。選手の怪我が多く出てしまったこともあり、目標としていた順位には届きませんでしたが、来年さらに良い成績をのこすため、現在はより一層練習に励んでいます。また、国際大会に日本代表として出場する選手もでてきており、部全体で競技力を向上させ、それぞれの出場する大会に合わせて精力的に活動しています。

体操競技部HPやインスタグラムで大会結果や活動報告を随時発信しているため、ぜひチェックしてください。

(寄稿／体操競技部主務 五十嵐優也・体育専門学群3年)

女子バレーボール部



2023年全日本インカレ優勝 2023年12月3日撮影

私たち女子バレーボール部はバレーボールを通して、学生としての心身の健全な発達と明るく豊かな学生生活を通じた人格形成に寄与することを目的として活動しています。年間を通して春季・秋季リーグ戦、東日本インカレ、全日本インカレに向けて、球技体育館にて練習に励んでいます。

昨年度は11月に山形県上山市の蔵王にて合宿も行い、技術面はもちろん、チームとしての団結力も高めることができました。また、海外の大学との交流もあり、2022年にはフィリピンのナショナル大学が来校し、練習ゲームだけでなくウェルカムパーティーを開催し、食事を共にしながらたくさんのコミュニケーションをとり自分たちのコミュニティも広がりました。

1人1人の努力と、周りの方々のご支援のおかげで昨年度は春季・秋季リーグ戦優勝、東日本インカレ準優勝、そして全日本インカレ優勝という結果を残すことができました。

(寄稿／女子バレーボール部主務 長谷川陽・体育専門学群2年)

紫峰ギャラリー

こちらのコーナーでは、課外活動団体の日々の活動を写真を通して紹介しています。今回は体育会医学部会より、医学アイスホッケー部と医学バスケットボール部の試合の様子および文化系サークル連合会より津軽三味線倶楽部無絃塾の活動の様子です。



医学アイスホッケー部

2023 年
東日本医科学生総合体育大会
優勝
シュートの瞬間



医学バスケットボール部

関東医歯薬秋季リーグ
大会終了後の全体写真
4 位
試合の様子



津軽三味線倶楽部 無絃塾

民謡民舞全国大会
内閣総理大臣賞争奪戦
4 位
津軽あいや節の様子

紫峰会基金に寄附してくださった皆様へ

多くのご寄附をいただきありがとうございます。皆様からいただいたご寄附の全額を課外活動団体援助金として使用させていただきます。援助金のおかげで活動にかかる負担が減り、学業や課外活動をより充実させることができました。

現在課外活動は、感染対策等による活動制限がなくなり、コロナ禍前の活気や風景を取り戻しつつあります。厳しい時期を抜け、各団体はさらなる活動を目指してまいりますので、今後も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。

課外活動団体一同

大学院進学報告



理工学群 工学システム学類 4年 長沼正樹

本稿では私が大学院に進学することとした理由とともに、試験を受けるにあたって、研究活動を通して学んだことについてお話しします。

■進学予定の学術院／研究群／学位プログラム

理工情報生命学術院／システム情報工学研究群／知能機能システム学位プログラム

■大学院進学理由

大学院進学理由は、社会や他者に貢献できる人間になるにあたって必要な知識や経験を得るためです。大学院の授業では学類生のころより、深い内容が学べるし、自分の研究をより時間をかけて進めることができると考えました。

■試験を受けるにあたって

僕が進学した学位プログラムは7月に実施される推薦入試、8月に実施される前期一般入試、1～2月に実施される後期一般入試の3種類の試験があるのですが、僕は推薦入試で受験しました。推薦入試は事前に研究計画書とTOEICのテスト結果を提出し、試験当日に数学の試験と研究計画について2分間で紹介をした後、質疑応答がありました。当日の数学の試験は一度きりですが、事前に受けてお

くTOEICは何度か挑戦することができるので、早い時期に受験し、少しでもいい点をとって試験の不安を和らげ、残りの時間を数学の勉強に充てることをお勧めします。

■研究活動を通して学んだこと

研究活動を通して学んだことは、研究は人生のようなものということです。僕は簡単にいうとロボットの研究をしています。研究過程で大きな目標があり、多くの場合それに向けた試みは一筋縄ではいきません。ですが、たまに上手くいく時があります。その時は嬉しいし、一歩進んだという実感と達成感があります。研究はそういった試行錯誤の積み重ねだと思っています。これは人生も同じなのではないかなと感じます。人生には研究と違い明確な目標があらかじめ定まっていることはありませんが、自分なりに目標を掲げ、それに向かって上手くいったり上手くいかなかったり試行錯誤しながら前進していく様はかっこいいと思います。僕は研究するように生きていきたいと思っています。



研究風景



社会・国際学群 社会学類 4年 藤島充澄

本稿では私が「大学院進学を決めた理由」とともに、「研究活動を通して学んだこと」に代えて「本との出会い」についてお話しします。

■進学予定の学術院／研究群／学位プログラム

人文社会ビジネス科学学術院／人文社会科学研究群／国際公共政策学位プログラム

■大学院進学理由

私が大学院進学を決めた理由は大きく分けて二つあります。社会学という学問領域の専門性を高め社会学に貢献すること、私の問題意識「相談できない男性」に対して(一応の)決着をつけることです。

まず専門性と貢献について。卒業論文では「学士」取得に向け、自身の問題関心を社会学の概念、理論、方法を用いながら言葉にすることが(最低限)目指されます。修士論文では卒業論文での「慣れ」を活かしながらその一歩先、「いまある知に依拠しながらいまだない知を生み出す」という新規性と「なぜそれが正しいのか適切なやり方で防御する」という妥当性がより先鋭に問われます。こうした専門性を修士課程で身につけ、論文という成果物をもって社会学や専攻・研究群に対して貢献したいと思い進学を決めました。

では、なぜそこまで「社会学」に私はこだわるのでしょうか。「社会学を学ぶとどう嬉しいのか」について考えてみることで「こだわり」に迫りたいと思います。社会学の魅力は、人と人との「あいだ」(「コミュニケーション」、「相互作用」とも呼びます)に着目することで浮かびあがってくる「社会」を対象としながら、人びとにとっての「問題性」を「ひょっとしたらよりマシな」ほうへ変えていく「可能性」を考えられる点にあると私は感じています。人は悩みや苦しみ、痛みを感じずに生きていくことはできません。ですが、その「問題」がわたしだけのものではないこと、わたしだけのせいだと済ませるには惜しいこと、そしてわたしたちとは異なる社会では違った問題があること、というように〈わたし〉を〈あいだ〉で問い返してみる、するとズキズキと抱えるしかなかったものがどこかフワリとしたものに、たしかに怖いが触れられるものになってきませんか。人や社会をみる〈まなざし〉の移動によって、

私の、誰かの「つらさ」とうまく寄り添えるということが社会学を学ぶ「嬉しさ」であり私の「こだわり」なのだと思います。

そして「相談できない男性」について。近年では「男性は相談できない」「悩みを吐き出せない男性」「男性だってつらい」などといった「男性と相談」をめぐる問題が語られているように思います。また「男同士で1対1の傷の舐め合いしなくない」「どうして女の私にこんな重たい話を急にしてきたんだろう」という知り合いの語りを踏まえると、「辛さを抱え込む男性像」は「聴いてくれる女性像」と合わせて考えられそうです。

こうした「男性と相談」をめぐる問題系に対して私が問うてみたいことは、「どうして声の聴けなさや聴かなさは『男性の顔』をしているのだろう」というフェミニズム的な問いです。これは問う側の私に対しても向けられると思います。「(いわゆる)『男』である私がなぜフェミニズム的な問いを問うのか?」と。この問いに答えることは難しい……、ですが「男性の聴かれなさ」という「相談できない男性」と似た形で問題を捉えるのではなく、「『女』を、そして『男』を聴け／なかった『男』〈わたし〉」というように、〈あいだ〉に移動することでみえてくる「相談とジェンダー」の問題を私は考えたいです。「母」を聴けなかったこと、「父」を聴けなかったこととして。

■「研究活動を通して学んだこと」に代えて

4年間で出会ってきた人や本は受験／合格／進学というストーリーには言い尽くせません。単線的な成功物語に回収されないようにと、研究活動をゆたかにしてくれた本を挙げさせていただくことで、私の学びをお伝えできれば幸いです。

・田中美津『いのちの女たちへ』
わたしの「痛み」はわかってもらえないかもしれない、わたしにもよくわからない。そんななか「わかってもらおうと思うは乞食の心」と、この本では告げられています。では、とり乱すわたしの声を、あなたは、なぜ／どのようにして聴きますか。
・小松原織香『当事者は嘘をつく』
「研究者」としての私。「サバイバー」としての私。「支援者」に支配される私。「当事者」という言葉はいま様々語られていますが、わたしたちは「当事者」にどのような意味を込めて(しまっ)ているのでしょうか。著者が災禍の痕残な水俣で出会ったものとは何なのでしょう。そして「私の話を信じてほしい」という声にわたしたちはいかに寄り添うのでしょうか。